

青森空港に大型ステンドグラス作品設置

青森出身のアートディレクター 森本千絵氏原画・監修

『青の森へ』

2021年2月完成予定



『青の森へ』原画

公益財団法人 日本交通文化協会（東京都千代田区、理事長：滝久雄）と青森空港ビル株式会社（青森県青森市、代表取締役社長：林哲夫）は、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受け、青森空港旅客ターミナルビル1階チケットロビーに大型ステンドグラス『青の森へ』を設置することが決定しました。2021年2月に完成を予定しています。

青森空港は、毎年夏に開催される青森ねぶた祭や、青森県立美術館や十和田市現代美術館などへのアート鑑賞、世界遺産の白神山地をはじめとした自然などを目的に国内外から訪れる多くの観光客や、青森県民にとって重要な玄関口となっています。昨年旅客ターミナルビルの大規模リニューアル工事が完了し新しく生まれ変わった青森空港に本パブリックアート作品を設置し、訪れる人々を幻想的な青の光でお迎えます。

この作品の原画・監修を務めるのは、青森県三沢市出身で、アートディレクターとして企業の広告制作やミュージシャンのアートワークを手掛けるなど多方面で活躍している森本千絵氏。青森県が誇る青森ねぶた祭のねぶたや跳人（ハネト）と呼ばれる踊り手、太陽のような赤いりんご、十和田湖や奥入瀬や白神山地など、人々を魅了してやまない青森の風物風景が表現されています。そして、森本氏が青森空港のために特別に制作した切り絵をもとに、「クリアーレ熱海ゆがわら工房」（静岡県熱海市）で6人のステンドグラス職人が製作します。

本作品を空港利用者の大半が利用する場所に設置することで、多くの利用者に青森の風情を鮮烈に印象づけ、より一層の賑わいや心地よさをご提供できると考えています。設置後には、青森空港にて完成披露除幕式を行う予定です。

大型ステンドグラス『青の森へ』作品概要

- 当事業の目的
 - ①アートディレクター・森本 千絵氏の切り絵をもとにしたステンドグラス作品により、パブリックアートの普及を促進
 - ②パブリックアートを通じて気軽に芸術に慣れ親しむことで、人々の心を和ませ、元気づける空間を創出
 - ③青森県に縁のある作家の作品によって地域の活性化、観光開発に貢献
- 設置場所 青森空港旅客ターミナルビル1階チケットロビー
- 規模 縦 2.4m×横 11.4m
- 原画・監修 森本 千絵氏
- 題名 「青の森へ」
- ステンドグラス製作 クレアール熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）
- 作家プロフィール



森本 千絵（もりもと・ちえ）

アートディレクター・コミュニケーションディレクター
武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科客員教授

1976年青森県三沢市で生まれ、東京で育つ。武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科を経て博報堂入社。2007年、もっとイノチに近いデザインもしていきたいと考え「出会いを発見する。夢をカタチにし、人をつなげる」をモットーに株式会社 goen^oを設立。現在、広告の企画、演出、商品開発、ミュージシャンのアートワーク、本の装丁、映画・舞台の美術や、動物園や保育園の空間ディレクションを手がけるなど活動は多岐にわたる。ニューヨーク ADC 賞、東京 ADC 賞グランプリ、伊丹十三賞、日本建築学会賞など多数受賞

このパブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。



◇公益財団法人 日本交通文化協会ホームページ <https://jptca.org/>

＜参考資料＞

クレーレ熱海ゆがわら工房

(静岡県熱海市泉 230-1)



日本交通文化協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、熱海と信楽においてステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。建築家・隈研吾氏の設計によるクレーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設、焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される第一級のパブリックアートの創造拠点です。



鳥取県/米子空港「妖怪たちの森」(2016)
原画 水木 しげる氏



広島県/アストラムライン本通駅「夕凧の街 桜の国」(2019)
原画・監修 こうの史代氏



野見山 暁治氏



高橋 陽一氏



平松 礼二氏



宮田 亮平氏